

第2学年A組 保健体育科学習指導案

授業者 山田大生

1 単元名 「球技」(ネット型 バレーボール)

2 運動の特性

(1) 一般的特性

バレーボールは、ネットを挟んで相対し、身体を操作してボールを空いている場所に返球し、一定の得点に早く到達することを競い合うゲームである。ボール操作と定位置に戻るなどのボールを持たない動きによって、空いた場所をめぐる攻防を展開し、勝敗を競うことが楽しい種目である。

(2) 生徒から見た特性

運動の楽しさや喜びを感じる要因	運動を遠ざける要因
○スパイクをしたとき、決まった時の喜び	○ボールを拾うことができずに失点する
○ボールを拾い、協力して返せたときの達成感	○ボールが繋がらない
○仲間と協力し勝ったときの楽しさ	○仲間と連携できず味方から失敗を責められる

3 生徒の実態

(1) 知識及び技能

ほぼ全員の生徒が基本用語を理解し、学習に取り組んでいる。基本的なボール操作が苦手な生徒も多く、ボールの落下地点に入ることや距離感をつかむことに苦戦している。

(2) 思考力、判断力、表現力等

自分の考えを話し合いの場面において、表現することができる生徒が学級の半数くらいおり、成果と課題を捉えて深めようとする生徒もいる。しかし、話し合う内容等を現状で満足してしまう生徒も多くいる。

(3) 学びに向かう力、人間性等

運動に意欲的に活動に取り組むことができる。話し合い活動では、自らの意見を進んで言うことができない生徒も多くいる。2人組等の学習であれば、お互いに助言しながら支え合う姿が見られる。

【意識調査の結果から】

バレーボールが好きな生徒は16名いて、嫌いな生徒は7名いる。バレーボールの授業で心配なことは「突き指などのケガ」と答えた生徒が多い。また、「他人の邪魔にならないか」「チームの荷物にならないか」などの周囲からの見え方が心配な生徒もいる。

4 教師の指導観

バレーボールは、仲間と協力してラリーを続けることや空いた場所を狙って相手コートにボールを落としたりするところに楽しさを感じる。また、仲間と声を掛け合い、助け合ったり励まし合ったりすることも楽しさの一つである。しかし、ボール操作が上手くできないとパスをつなぐことができないので、空いた場所をめぐる攻防を展開できず、十分に楽しさを味わうことができない。

基本的なボール操作とともに、落下地点に入ることやボールとの距離感をつかむために、コートの大さを片面5m×6mとし、小さめのコートにしている。また、ネットの高さを2m20cmに設定し、パスやラリーの際にボールの軌道を高くし、落下地点に入る時間を確保する。仲間と連携し、ボールを繋ぎ得点する楽しさを味わわせたい。また、研究主題である「豊かなスポーツライフを実現する資質・能力の育成へ向けた授業改善～課題の合理的解決に夢中になる生徒の育成に向けて～」のための手立てを踏まえて、次のことに重点を置いて指導していく。

(1) 夢中を引き出すために生徒の実態を明らかにする工夫

単元の始めに試しのゲームに取り組む生徒の姿からゲームの様相分析を行った。また、アンケート調査から生徒が授業で求めているものの情報を収集した。

〈ゲームの様相分析の結果(改善が必要なもの)〉

- ・相手からのボールに反応できず、自陣にボールが落ちて失点してしまう。(知識及び技能)
- ・チームメンバーの一人しかボールに触らずに返球し、チーム全体で取り組んでいない。(知識及び技能)
- ・相手からのボールを拾おうとするが、準備姿勢が取れずボールや相手に正対していないため、ボールを拾うことができない。(知識及び技能)
- ・試合中の会話がほとんどなく、試合後の会話では、負けた原因は個人的技能に向けられ、チー

- ・ ムの動き方やカバーし合う等の改善案は提案されない。(思考力, 判断力, 表現力等)
- ・ 用具準備の時に足でボールを蹴ったり, ゼッケンをたたまなくても平気な生徒がいる。(学びに向かう力, 人間性等)

〈生徒が授業で求めているもの〉

- ・ ボールを拾ったり, 繋いだりすることや動き方に関すること (知識及び技能) (23名)
- ・ 戦い方や動き方を工夫する方略 (思考力, 判断力, 表現力等) (5名)
- ・ 仲間との協力やチームワークの取り方 (学びに向かう力, 人間性等) (9名)

上記の二つの調査を基に, 生徒の実態に合わせて夢中な姿を引き出すために, 三つの資質・能力に関わる学びの目標像を分かりやすく示し, 教師と生徒で共有できる時間を配置し, 単元を通して現在の状況から課題を明確に持ち直す場を設定するとともに, 自己決定を大切にすることができるようにする。

(2) 夢中を引き出す協働的な学びの充実による課題解決的な学習の工夫

課題解決学習を進めるために単元の中で「目標の設定」, 「課題の分析」, 「練習の選択と練習」, 「練習の有効性の検討」, 「練習と新たな課題の分析」を何度も実施できるように計画し, トライ&エラーを繰り返しながら課題解決を進めていけるようにする。チームで課題解決に取り組む際に, 映像分析担当, 作戦担当, 練習メニュー担当などの役割を分担し, それぞれの立場から意見を述べられるようにするとともに, お互いの分析や考えをもとによりよい横の連携を図れるように工夫し, 話し合いが活性化しチーム内での意見が融合することでチームや個人の課題が明確になるようにする。

(3) 夢中を引き出す個別最適な学びの工夫

試合の映像を最初の試合から撮りためて e ポートフォリオとして共有することで, 自チームの映像を誰でも見られるようにする。単元の中のそれぞれの問い (小問) に対して自分の姿を確認し, 気づきや知識を蓄積させる。単元の最後の時間にパフォーマンス課題に取り組む際には, 自分の学びを客観的に見直すことができ課題解決までの実績を視覚化できるようにする。

5 単元の目標

- (1) バレーボールについて, 勝敗を競う楽しさや喜びを味わい, 球技の特性や (成り立ち), 技術の名称や行い方, (その運動に関連して高まる体力など) を理解するとともに, 基本的な技能や仲間と連携した動きでゲームを展開することができるようにする。〈知識及び技能〉
- (2) 攻防などの自己やチームの課題を発見し, 合理的な解決に向けて運動の取り組み方を工夫するとともに, 自己や仲間の考えたことを他者に伝えることができるようにする。〈思考力, 判断力, 表現力等〉
- (3) (球技に積極的に取り組むとともに), フェアなプレイを大切にしようとする事, (作戦などについての話し合いに貢献しようとする事), (一人一人の違いに応じたプレイなどを大切にしようとする事), 仲間の学習を援助しようとする事などや, (健康・安全に気を配ること) ができるようにする。〈学びに向かう力, 人間性等〉

6 単元の評価規準

知識・技能		思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
○知識 ①バレーボールにおいて用いられる技術や戦術, 作戦には名称があり, それらを身に付けるためのポイントがあることについて言ったり書き出したりしている。 ②学習した具体例を挙げている。戦術やゲーム中に適切に発揮することが攻防のポイントであることについて学習した具体例を挙げている。	○技能 ①味方が操作しやすい位置にボールつなぐことができる。 ②相手の打球に備えた準備姿勢をとることができる。 ③相手側のコートに空いた場所にボールを返すことができる。	①提示された動きのポイントやつまずきの事例を参考に仲間の課題や出来映えを伝えている。 ②練習やゲームの場面で最善を尽くす, フェアなプレイなどのよい取組を見付け, 理由を添えて他者に伝えている。	①マナーを守ったり相手の健闘を認めたりして, フェアなプレイを守ろうとしている。 ②練習の補助をしたり仲間に助言したりして, 仲間の学習を援助しようとしている。

7 単元の計画

(1) 領域の取り上げ方

学年/運動	バスケットボール	サッカー	ハンドボール	バレーボール	バドミントン	ソフトボール
第1学年		8時間			6時間	8時間
第2学年	8時間	8時間	8時間	9時間		
第3学年	※15時間	※15時間	※15時間	※15時間	※15時間	※15時間

(2) 内容 (運動種目) の取り上げ方

学年	教材	目指す動き
2	バレーボール	ボールや用具の操作と定位置に戻るなどの動きによってラリーを続けながら空いた場所をめぐる攻防ができるようにする。
3	バレーボール	役割に応じたボール操作や仲間と連携した動きによって空いた場所をめぐる攻防をすることができるようにする。

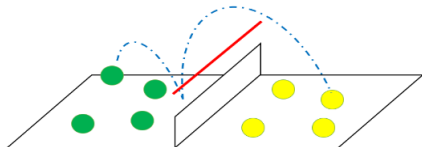
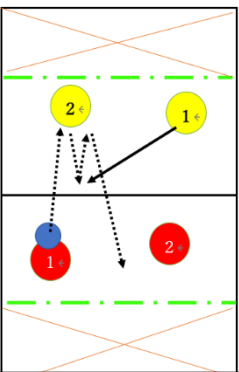
(3) 指導と評価の計画 (8時間扱い) 本時は○印 6/9時 ★学校研究との繋がり

	1	2	3	4	5	⑥	7	8	9
いねら	見通しを持って積極的に取り組みよう	基本的な技能を確認しよう	基本的な技能を身に付けよう	ポジションと役割を考えよう	相手の攻撃に備えよう	空いた場所にボールを返そう	チームの課題を分析し解決しよう		仲間と連携した動きでゲームを楽しもう
指導内容	・特性や約束事 ・役割分担 ・準備の仕方	ボールの扱い方	攻防するための基本的な技能	ポジションごとの役割	相手の打球に備えた準備姿勢	空いた場所への返球	課題の分析	課題解決に向けた練習選択	互いに助け合う
	見通しを持って積極的に取り組めるようにする	防御から攻撃につなげるための高さや位置を意識したプレイができるようにする	・ポジションごとの役割を理解できるようにする。 ・ボールを持たないときの動きができるようにする ・空いた場所の攻防ができるようにする。	提供された練習方法からチームの課題に応じた練習方法を選ぶことができるようにする。 練習やゲームの場面でよい取組を見付け、理由を添えて他者に伝えられるようにする。		マナーやフェアなプレイを守れるようにする。			
知(問いの構造化)	運動の特性 ネット型球技の特性	技術の名称や行い方/体力の高め方	ボールを持たないときの動き方			運動観察の方法		発表の仕方	
		【知識・技能①】 ボールを繋ぐための基本的な技能 小問①: ボールを拾うためには 小問②: 味方が操作しやすいボールの位置とは	【知識・技能②】 空いた場所の攻防 小問①: 空いた場所を作らないようにするためには 小問②: 得点するためには、相手コートはどこに返球すればよいのか	【思考・判断①】 チームの課題を分析し、適切な練習方法を選んで解決しよう 小問①: 試合で勝つためのチームの課題とは		【表現・態度】 全員で協力してリーグ戦を戦い抜こう			
思	単元を貫く問い：誰もが夢中になるバレーボールとは？								
	単元を貫く問いへの解答① 【態度】 単元を通して目指す姿を確認する ★生徒と教師で目標像を共通認識する	★映像分析担当: 試合の様子を撮影 →パスの高さや場所 ★小問に対する自分の姿を。ポートフォリオで確認する。	単元を貫く問いへの解答② ★生徒と教師で目標像を共通認識する ★映像分析担当: 試合の様子を撮影 →ポジション・ボールを持たない時の動き ★小問に対する自分の姿を。ポートフォリオで確認	単元を貫く問いへの解答③ ★映像分析担当: 試合の様子を撮影→自分たちの課題解決の検証 ★小問に対する自分の姿を。ポートフォリオで確認 ★各担当の考えを融合し、映像分析から課題導き出し、練習メニューと作戦を考える。	★映像分析担当: 試合の様子を撮影→自分たちの課題解決の検証				
態	主体態の目標像の確認	マナーを守り、相手の健闘を認めようとする	フェアなプレイを守ろうとする	練習の補助をしたり仲間を助言したりして、仲間の学習を援助しようとする					
学習過程	1 特性や約束の確認 2 学習の準備 ・チーム編成・学習カード ・学習の見通し・役割分担 3 試しのゲーム 4 次時の予告 5 挨拶片付け	1 用具の準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-up ゲーム 5 ねらいの確認 6 メインゲーム							
		7 知識の確認 8 ドリルゲーム 9 メインゲーム	7 知識の確認 8 ドリルゲーム 9 メインゲーム	7 知識の確認 8 タスクゲーム 9 メインゲーム	7 知識の確認 8 タスクゲーム 9 メインゲーム	7 知識の確認 8 タスクゲーム 9 メインゲーム	7 映像分析 8 課題分析 9 練習の選択と実施	7 映像分析 8 課題分析 9 練習の選択と実施	7 課題解決練習 8 リーグ戦 9 チーム毎問いの解答発表
評価の計画	知	①		②					
	技		①		②	③			
	思・判・表						①	②	
	態	①						①	②
方法	観察	学習カード・観察	観察	観察	観察	学習カード・観察	学習カード・観察	学習カード・観察	学習カード・観察
場面	8, 9	8, 9	8, 9	7, 8, 9	7, 8, 9	7, 8, 9	7, 8, 9	7, 8, 9	7, 8, 9

(4) 評価の改善ポイント：振り返り活動を意図的に単元計画に位置付け、ねらいや目標像と比較し現状を自己評価や相互評価できる時間を確保する。

8 本時の学習と指導（6／9）

- (1) ねらい
相手側のコート上の空いた場所やコースにボールを返そう (知識及び技能)
- (2) 準備
ボール、ネット、得点板、学習カード、ホワイトボード、筆記用具、ホワイトボードマーカー、PC、ゴム紐、
- (3) 展開

	学習内容・活動	指導上の留意点 (○：指導 ◆：評価 ★：学校研究との関わり)
導入 10分	1 用具準備 2 集合・挨拶・健康観察 3 準備運動 4 W-U Pゲーム ・チームで円陣パス 時間と回数を競う ・パスを受けやすくするための高さを意識する。	○協力して素早く安全に準備させる。 ○健康観察をして、元気よく挨拶をする。 ○ケガの防止を意識させる。 ○動きながらボールを扱えるようにする。 ○基本的技能を確認しながら、何度も反復練習ができるようにする。 ★夢中になってチームでの記録向上を目指すゲーム
展開 35分	5 本時のねらいと学習内容の確認 空いている場所やコースにボールを返そう	○生徒がねらいを主体的にとらえられるように前時までの学びの振り返り、つまずきの状況を確認する。 ★自分の状況を知り、つまずきの状況を確認する。 ○ゲームにおける自チームの状況を映像で確認できるようにする。 ○これまで学んできたボールを持たないときの動きを確認し、事前に確認した役割と相手からのボールに対する役割の判断があることを確認する。
	6 ポジションの確認 ・各チームが考えたポジションを根拠とともに確認する	
	7 4対4のメインゲーム 	◆空いている場所やコースにボールを返そう。 (観察・学習カード)【知識・技能】 △努力を要すると判断される状況(C)の生徒への指導の手立て ・サーブプレンプをキャッチに変えて行う。 ・キャッチ後にパスをしやすい位置に移動させる。 ◎「十分満足できると判断される状況(A)」の生徒の具体的な姿 ・空いている場所を選択し、パスが行える。 ・打球に備えた準備姿勢が取れている
	8 空いている場所にボールを返すタスクゲーム ・下手投げでボールを投げ入れる。 ・①拾う→②キャッチ&パス→③パスで返球する ・②を行うプレイヤーは相手が③を行いやすいパスの出せる位置まで移動する。 ・②のキャッチ&パスの時に③を行うプレイヤーは左右中等の返球する場所を選択しパスを行う。 ・相手も返球されたボールをキャッチし繰り返す。 	○相手チームの状況を確認、判断、返球するなどゲームとのつながりを確認しながらプレイさせる。 ○相手の打球に備えた準備姿勢が取れるようにする。 ○ボールをつなぐためには、自分に向かってきたボールを拾うだけでなく、次の人が取りやすい高さや角度になるよう意識させる。 ○何度失敗しても認められる雰囲気大切にたくさん挑戦できるようにする。 ○良い点や努力している姿を積極的に称賛する。 ○チームにおける自分のポジションに戻ることで、打球に対する準備姿勢が取れるようにポイントを整理させる。
	【引き出したい動き】 空いている場所を選択しパスを行う。打球に備えた準備姿勢がとれている	
整理 5分	9 4対4のメインゲーム	
	10 集合・整理運動・健康観察 11 学習の振り返りとまとめ 空いている場所・コースにボールを返すことができる。	○協力して素早く片付けを行えるようにする。 ○整理運動は使った部位を伸ばせるようにする。 ○タスクゲームと2回目のゲーム内容を踏まえて、自己のチームの変化、感じたことや気付いたことを記述できるようにする。 ○本時のまとめを行い、次時に行くことを確認する。
	12 次時の予告 13 挨拶・まとめ	

